

令和元年度がけ等実態調査結果の概要

区では、区内の高さ2m以上のがけまたは擁壁（「がけ等」という。）を対象として、平成22年度・23年度に実態調査（前回調査という。）を行っている。

このがけ等実態調査結果に基づき、所有者に対して、改善の働きかけを行ってきた。前回の調査以降、東京都は、区内97か所の土砂災害警戒区域の指定を行っており、この区域にあるがけや同規模のがけ等について調査を改めて行った。結果の概要を報告する。

1 調査期間

令和元年5月30日～令和2年3月19日

2 調査方法

外観目視調査により、A～Cランクの3段階に評価

（Aランク：外観上、当面の危険性はないと思われる、Bランク：変形、劣化等がみられるので経過観察が必要、Cランク：変形、劣化等が著しく、改善の検討が必要）

※この評価は、外観目視調査であり、「安全性」や「危険性」を断定するものではない。

3 調査内容

調査事項	調査票記載内容
基本事項	がけ等の所在地、所有者
計測調査	がけ等の規模（高さ、長さ、勾配等）
外観目視調査	がけ等の設置状況及び分類、変形・劣化状況等 近接建物状況（位置、構造、階数、用途等）
評価	調査結果に基づく評価（A～Cの3段階）

4 調査箇所

前回調査を行った区内のがけ等（6,534箇所）のうち、347箇所

[抽出条件]

- ① 土砂災害警戒区域内にあり、前回の調査がBランクまたCランクの箇所 184箇所
- ② 前回の調査結果がCランクで高さ5m以上の箇所 58箇所
- ③ ①、②以外でCランクの箇所 105箇所

5 調査結果

(1) 調査結果の概要

ランク	箇所	割合(%)
Aランク	24	7
Bランク	104	30
Cランク	197	57
開発等による解消	22	6
合計	347	100

(2) 前回調査からの変化

状況	箇所	割合(%)
悪化「B→C」	16	5
変化なし「B→BもしくはC→C」	277	80
向上「B→AもしくはC→B」「C→A」	32	15
開発等による解消	22	
合計	347	100

(3) 状況変化の分析

総合評価の変化	H22・H23時点での分類			変化の主な要因
	がけのみ	擁壁のみ	がけ+擁壁	
悪化	がけのみ	0	16	<ul style="list-style-type: none"> ・クラックの発生・拡大、ずれの拡大 ・沈下や浮きの発生 ・目地のずれ、クラックの発生・拡大 ・自然斜面のオーバーハング発生
	擁壁のみ	6		
	がけ+擁壁	10		
向上	がけのみ	5	32	<ul style="list-style-type: none"> ・鉄筋コンクリート造擁壁等への建替え ・斜面への土留め実施 ・鉄筋コンクリート造擁壁等への建替え ・鉄筋コンクリート造擁壁等への建替え
	擁壁のみ	14		
	がけ+擁壁	13		
開発等による解消	がけのみ	3	22	<ul style="list-style-type: none"> ・戸建て建替え 14 ・マンション新築等 7 ・宅地改修工事中 1
	擁壁のみ	10		
	がけ+擁壁	9		
変化なし	がけのみ	22	277	
	擁壁のみ	105		
	がけ+擁壁	150		
合計		347	347	

6 調査後の取組み

今回の調査結果を所有者に通知し、がけ等の日常管理の重要性を啓発するとともに、BランクやCランクのがけ等の所有者に対しては、助成制度を活用した改修の働きかけを行う。

また、土砂災害警戒区域以外の高さ5m以上のBランクのがけ等について、引き続き調査を行う。